

## 詩編 66篇 – 主を賛美し、栄光を帰せよ

おはようございます。皆さんと共に主を賛美できることは素晴らしい祝福です。これまで数週間、コリント人への手紙一で私たちの霊的賜物の行使と私たちの礼拝においてどのように用いるかについてを学んできました。今日は、先週に引き続き、第一コリントの学びを一時休み、詩編の一つ詩篇66篇を学んでいきます。詩編は歌集であり、そのほとんどはキリストの千年ほど前を生きたダビデ王によって書かれています。詩編66篇は明確にダビデ王が作者であると言えるわけではありませんが、彼によって書かれた可能性は高いと考えられています。詩編に臨む時、この書はそのほかの聖書の書と同様に神の靈感によって書かれた言葉であることを覚えることは重要です。私たちは **テモテへの手紙第二 3章 16節**からそのことを知っています。 **16 聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。** 第一コリントでパウロのスタイルが伝わってくるのを見たように、ここでは詩編作者の詩的スタイルと感情も伝わってきます。私たちは彼が神に泣き叫び、時として神と格闘するのを見ます。それを通して、神は私たちの霊的成長のために信じられないような真理を宣言します。まず、1-4節を読んで始めましょう。

**1 全地よ 神に向かって喜び叫べ。 2 御名の栄光をほめ歌い 神の誉れに栄光を帰せよ。 3 神に申し上げよ。「あなたのみわざはなんと恐ろしいことでしょうか。偉大な御力のためにあなたの敵は御前にへつらい服します。 4 全地はあなたを伏し拝みます。あなたをほめ歌いあなたの御名をほめ歌います。」 セラ**

詩編は神への賛美の宣言から始まります。私たちは歌い、神に栄光の賛美を献げるためにこの地球全体と共に叫ぶのです。確かに、私たちの礼拝の中には罪を嘆き悲しむところから来るものもあります。詩編130篇はなじみがあり、良く礼拝でも歌います。 **詩篇130篇 1-3節 1 主よ 深い淵から私はあなたを呼び求めます。 2 主よ 私の声を聞いてください。私の願いの声に耳を傾けてください。 3 主よ あなたがもし 不義に目を留められるなら 主よ だれが御前に立てるでしょうか。**しかし、私たちの礼拝はただ重苦しく嘆くだけではありません。詩編 66篇は喜び溢れているべきでもあることを示しています。礼拝は輝かしく、王の中の王にふさわしい誉と尊厳と崇敬の念を献げなければなりません。今日、あなたはこれらの聖句を聴きながらすぐに共鳴されて、今にも歌い、叫び、神の栄光を賛美しようとしてされているかもしれません。あるいは、今朝の音楽による礼拝を体験されても詩篇作者が描写する喜びを欠いているのでしょうか。どのように喜び溢れる礼拝の心を養うのでしょうか。5節を読み進みましょう。 **5 さあ 神のみわざを見よ。神が人の子らになさることは恐ろしい。 6 神は海を乾いた所とされた。人々は川の中を歩いて渡った。 さあ 私たちは神にあって喜ぼう。 7 神はその御力をもってとこしえに統べ治め その目は国々を見張られる。どうか 頑迷な者を高ぶらせないでください。 セラ**

ここで、詩篇作者の主要テーマの一つを見ます。神の壮大な偉業を覚えることは私たちが神中心の喜びに満ちた礼拝に導きます。ここでイスラエルの民のエジプトからの脱出の言及を見ます。神の民、イスラエル人は一方では、彼らを奴隷として連れ戻そうと追いかけて来たエジプト軍団、他方では広大な紅海に阻まれて明らかに逃げ場を失っているようでした。しかし、モーセは出エジプト記 14章 13節で神の民に告げました。 **出エジプト記 14章 13-14節 13 モーセは民に言った。「恐れてはならない。しっかり立って、今日あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。あなたがたは、今日見ているエジプト人をもはや永久に見ることはない。 14 主があなたがたのために戦われるのだ。あなたがたは、ただ黙っていなさい。」**

モーセが彼の手を紅海に向かって差し伸べると、神は海を分けられイスラエルの民は乾いた地を通った。エジプト軍はイスラエル人を追ったが、イスラエルの民が海を渡り切った後、モーセは再び彼の手を差し伸べると水は流れ返り、ファラオとエジプト軍勢は一人残らず溺れ死んだ。後に、ヨシュア記 3章で、神は同じような御業でヨルダン川を分けられイスラエルの民は干上がった川床を渡り、神により約束された地に導き入れられました。確かに、神が御自身の民をどのように救い出されたかを思い出す事は私たちが礼拝するよう仕向けます。詩篇作者は神のイスラエルの救い出しを覚えていました。その人がやはりダビデであったと仮定すると、彼は敵国と王ら、イスラエルの嫉妬に燃える王、サウル、そして彼自身の罪による数々の危機を神の救いによって乗り越えて来ました。しかし、私たちは遥かに重要な救いの物語を知っているのではありませんか。 **ローマ人への手紙 6章 23節 23罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。**

私たち全員 神に対する罪のために永遠の刑罰を受けて当然です。新約聖書のヘブル人への手紙11章でダビデやその他の人の信仰を称賛する時、39節からこう言っています。 **ヘブル人への手紙 11章 39-40節 39 これらの人たちはみな、その信仰によって称賛されましたが、約束されたものを手に入れることはありませんでした。40 神は私たちのために、もっとすぐれたものを用意しておられたので、私たちを抜きにして、彼らが完全な者とされることはなかったのです。そして12章2節で続けます。 2ヘブル人への手紙 12章2節 2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。詩篇が書かれた千年後に神の御子、イエス・キリスト、私たちの神に対する罪に値する刑罰を耐え忍ぶために地上に来られました。その罰は悲痛で屈辱的なまるで犯罪者であるかのような十字架での死でした。 ヨハネの福音書 3章 16節 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**

詩篇作者は神が民を悪の手から救い出し約束の地へ導かれた時々を思い出しました。彼は神への信仰によって救われていました。信仰によってキリストに向き、自分の罪を悔い改めた人たちは、詩篇作者に捧げられたような旧約聖書の動物の生贄 は罪の罰と債務を償うに不十分である事を理解していました。私たちは私たちの罪からの救いのためにキリストを見るたびに、私たちの身代わりとなり主が支払われた大きな代償を知り、神を賛美せずにはおられません。詩篇 66篇 7節は 警告を含んでいます。 **どうか 頑迷な者を高ぶらせないでください。**

私たちは神から目を逸らし、自分中心になりがちではないでしょうか。 ジョン・パイパー師はこう書いています。自惚れた現代の預言者が十字架は神がこれほど大きな代償を支払って救う私には計り知れない価値がある事の証であると言うことはあまりにも酷く十字架の意味を歪めています。聖書的な視点からは十字架は神の栄光の計り知れない価値と、私たちの高慢の計り知れない罪の重さの証です。最近の多くの礼拝を装う歌さえも神の私たちの扱い方からまるで私たちが偉大であるように指し示します。詩篇を読むと、神中心の正しい視点に戻してくれます。キリストの信者として、応答は、神が愛してくださるので、私はこれで十分です。ではなく、私はまだまだ罪深く不十分です。私の罪のためのキリストの大いなる無償の愛による自己犠牲のみが私の神に対する不従順と背きの負債である代償を支払うことができるのです。

詩篇66篇を読み進みましょう。8節からです。8 国々の民よ 私たちの神をほめたたえよ。神の誉れをたたえる声を響き渡らせよ。9 神は私たちのたましいをいのちのうちに保ち 私たちの足を揺るがされない。これらの言葉を読む時、私たちのこの生涯の繁栄を約束されていると思いがちですが、10節も読み続けましょう。詩篇作者は実際に苦難、重荷、試練の具体的な描写を与えています。10 神よ まことにあなたは私たちを試し 銀を精錬するように 私たちを錬られました。11 あなたは私たちを網に引き入れ 私たちの腰に重荷を負わされました。12 あなたは人々に 私たちの頭をまたがせ 私たちは 火の中 水の中を通りました。しかしあなたは私たちを豊かな所へ導き出して下さいました。

貴金属である銀は不純物を表面で救い取り除ける様非常に熱い火で溶融点まで熱せられます。この工程を通して、銀はより純度が高くなり、高価になります。時として、神は私たちを試みられる工程を通らされます。大きな重荷を負わせることや、また、詩篇作者のように他の人に踏みつけられたりする事を許され、それらによって私たちを清められます。そうされる時、神は私たちを豊かな場所に連れて行かれます。この豊かさをどう描写したら良いのでしょうか。新約聖書のヤコブ書を見てみましょう。まず、1章2節から。ヤコブの手紙 1章2-4, 12節2 私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。3 あなたがたが知っているとおりに、信仰が試されると忍耐が生まれます。4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。次に12節に跳びます。12 試練に耐える人は幸いです。耐え抜いた人は、神を愛する者たちに約束された、いのちの冠を受けるからです。

ここに重要な点を見ます。神は試みや試練を用いられて私たちのうちに揺るぎない信仰を創られ、それを通して、神を愛し、信じる者たちに永遠の命を授けられる。この詩篇の9節を覚えていますか。私たちが滑らない、躓かないようにして下さるのは神です。私たち自身の強靭さ、タフさ、意志の強さ、確固たる決意によってこれらの試練を耐えるのではありません。私たちの信仰が持ち堪えるのは神が私たちを守ってくださり、聖別してくださり、完成させるよう変えて下さるからです。それらを覚えて、礼拝で応答しましょう。

13節を読み続けましょう。13 私は全焼のささげ物を携えて あなたの家に行き 私の誓いをあなたに果たします。14 それは私の苦しみのときに 唇を大きく開き この口で申し上げた誓いです。15 私は 肥えたものを全焼のささげ物として 雄羊のいけにえの煙とともに あなたに献げます。雄牛を雄やぎとともに献げます。 セラ

詩篇作者は試練と最大の二ーズの最中に、彼は主に誓いを立てました。ここでそれらの約束を果たして、神が彼を試練の時を切り抜けさせて下さった事への感謝の多大な献げ物を差し出しました。今日、一つ私たち自身に自問してみましょう。私たちが試練や逆境にある時、神の方に向くでしょうか。神が私たちの信仰を試みの火で精錬されていることを理解しているでしょうか。それとも苦しみから恨みつらみで応答するでしょうか。私たちの心に内在する神の聖霊の力によって、詩篇作者のように神に従う新たな誓いで応答ができますよう。そして、救い出された時には、感謝の心を持ちますよう。神へ感謝を献げること 詩篇50篇23節で見る様に重要です。詩編 50:23. 23告白をいけにえとしてささげる人は わたしを栄光に輝かすであろう。道を正す人に、わたしは神の救いを示そう。

キリストが来られる以前、この感謝を表す一つの方法は今読んだように全焼のささげ物を通してでした。祭壇の香と全焼の動物は神が具体的に指示されたように献げられるのです。それでは、神は今日私たちに生け贄として何を望まれているのでしょうか。ローマ人への手紙 12章 1節 1 ですか

ら、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

神は私たちが神を称え、神に栄光を帰し、神を崇める人生を生きる時、私たち自身を、私たちの従順を、私たちの献身を望んでおられます。これは、イエスがマタイの福音書 15章 8-9節で引用されたイザヤ記 29章 13節の口先だけの賛同とは際立って対照的です。 **マタイの福音書 15章 8-9節 8** この民は口先でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。 **9** 彼らがわたしを礼拝しても、むなしい。人間の命令を、教えとして教えるのだから。

神の御前で祈っていても、教会にいても、神を崇める歌を歌っていても、私たちが心を御前に低くして謙り、心から神に近づき、神を称えて従うような人生を生きていなければ私たちの言葉も私たちの歌も無駄です。真に神を礼拝するには単なる口先だけの奉仕、しきたりや習慣ではなく、主が望まれる感謝と生きたささげ物を献げなければなりません。16-17節を読みましょう。 **16 さあ聞け すべて神を恐れる者たちよ。神が私のたましいになさったことを語ろう。 17 私はこの口で神を呼び求め この舌で神をあがめた。**

16-17節で、神の民が神が彼らの魂に何をなさったかを伝える証をすることによって主に栄光を帰すことができるという重要な点を見ます。詩篇作者のように私たちも他の人たちに神が私たちに何をなさって下さったかを宣言すべきです。神を畏れる人たちに分かち合うことによって、他の人たちの心を礼拝に掻き立てます。ですから毎月礼拝の中で教会員が証を分かち合います。しかし、そこに限る必要は全くありません。証は日曜学校のクラスで、小グループの集まりで、祈り会で、またショート・メッセージを使っても可能です。お聞きします。あなたは自分の魂に神がなさって下さった事を他の人に伝える習慣がありますか。詩篇の残りの部分を18節から読みましょう。 **18 もしも不義を 私が心のうちに見出すなら 主は聞き入れてくださらない。 19 しかし 確かに神は聞き入れ 私の祈りの声に耳を傾けてくださった。 20 ほむべきかな 神。神は私の祈りを退けず 御恵みを私から取り去られなかった。**

**18**節の警告を見ましたか。私たちが心のうちに罪を大切に抱えているならば、神は私たちの声を聞き入れてくださいません。詩篇はこの重要な点で締めくくられています。罪ではなく、神を大切に抱く時、私たちの賛美は聞き入れられます。このメッセージを終える前に、兄弟姉妹の皆さん、あなたはどのような咎を心に大事に抱えていますか。あなたがしっかりとしがみついている為にあなたを神から離れさせ、神があなたの声を聞き入れられなくするその罪は何ですか。今日、あなたに悔い改めるよう強くお勧めします。神との関係を修復してください。神の力ある御業を覚えて、あなたが神に栄光を帰す生きたささげ物としてあなたの人生を生きて喜びの賛美を献げてください。そして、忘れないでください、聖霊のみがあなたにそれを可能にさせ、信仰にあって耐えさせてくれます。まだキリストに信仰によって従っていない皆さん、この警告があなたにも当てはまることを知ってください。あなたのための今日の私の希望と祈り、あなたの神に対する罪が示され、あなたが当然受けるべき永遠の刑罰を理解し、聖霊があなたを罪の悔い改めと信仰へと導き、人となり彼の御名を信じて呼ぶ者全てのために死んでくださった、イエス・キリストのみを信頼するです。そうした時、あなたは永遠の命に与り、あなたにも私たちの救い主と王に栄えある輝かしい賛美を献げる大きな理由が持てます。

祈りましょう。

## Psalm 66 – Bring Glorious Praise to the Lord

Good morning! It's wonderful to join together to bring praise to the Lord. These past several weeks, we've been studying in the book of 1 Corinthians about the exercise of our spiritual gifts and how we should use them in our worship. Today, as we pause our study of 1 Corinthians, we'll be studying one of the Psalms, Psalm 66. The Psalms are a collection of songs, mostly written by King David who lived about a thousand years before Christ. While Psalm 66 is not specifically attributed to King David in the Bible, it is likely that it was still written by him.

As we approach the Psalms, it's important for us to remember that this book is the inspired word of God, just as the rest of the Bible is. We know from the book of [2 Timothy 3:16](#) that [All Scripture is breathed out by God and profitable for teaching, for reproof, for correction, and for training in righteousness...](#) Just as we saw Paul's style coming through in 1 Corinthians, we see the Psalmist's poetic style and emotion here as well. We see him crying out to God, and at times wrestling with God. Through it, God proclaims incredible truths for our spiritual growth.

Let's begin by reading verses 1-4. [1 Shout for joy to God, all the earth; 2 sing the glory of his name; give to him glorious praise! 3 Say to God, "How awesome are your deeds! So great is your power that your enemies come cringing to you. 4 All the earth worships you and sings praises to you; they sing praises to your name."](#)

The Psalm begins with a proclamation of praise to God. We are to sing; we are to *shout* along with all the earth to give God glorious praise. Certainly, some of our worship comes from a place of lament over sin; we're familiar with Psalm 130, which we often sing, [1 Out of the depths I cry to you, O Lord!... 3 If you, O Lord, should mark iniquities, O Lord, who could stand?](#) But our worship isn't only somber and lamenting; Psalm 66 shows us it should be joyful as well. It is meant to be glorious, bringing the honor, dignity, and reverence due to the King of Kings.

Today, you may hear these verses and immediately resonate with them, ready to sing, shout, and bring glorious praise to God. Or, you may have gone through our musical worship this morning, but without the joy the Psalmist describes. How do we cultivate a joyful, worshipful heart? Let's continue reading in verse 5. [5 Come and see what God has done: he is awesome in his deeds toward the children of man. 6 He turned the sea into dry land; they passed through the river on foot. There did we rejoice in him, 7 who rules by his might forever, whose eyes keep watch on the nations—let not the rebellious exalt themselves.](#)

We see one of the Psalmist's main themes: **Remembering God's mighty deeds leads us to joyful, God-centered worship.** We see here a reference to the Exodus of the Israelites from Egypt. God's people, the Israelites were trapped between an Egyptian army pursuing them on one side, ready to take them back as slaves, and the vast Red Sea on the other side with no apparent escape. But Moses told God's people in Exodus 14 verse [13... 'Fear not, stand firm, and see the salvation of the Lord, which he will work for you today. For the Egyptians whom you see today you shall never see again. 14 The Lord will fight for you, and you have only to be silent.'](#) And Moses lifted up his hand over the Red Sea, and God parted the sea for the Israelites to pass over on dry land. The Egyptians followed the Israelites, but after the

Israelites had crossed over, Moses again lifted up his hand, and the water returned, drowning Pharaoh and the Egyptians in their pursuit. Later in the book of Joshua chapter 3, God parted the Jordan River in a similar act to allow the Israelites to cross over on dry ground as they were led into the land promised them by God.

Certainly, remembering how God has delivered his people should lead us to worship. The Psalmist remembered God's deliverance of Israel, and assuming that this was indeed David, he lived through God's deliverance many times from enemy nations and kings; from a jealous king of Israel, Saul; and even from his own sin. But we know an even greater story of deliverance, don't we?

**Romans 6:23** says **23 For the wages of sin is death, but the free gift of God is eternal life in Christ Jesus our Lord.** We all deserve an eternal punishment for our sin against God. The New Testament book of **Hebrews chapter 11** when speaking of David and others commended for their faith says starting in verse 39, **39 And all these, though commended through their faith, did not receive what was promised, 40 since God had provided something better for us, that apart from us they should not be made perfect.** And chapter 12 verse 2 looking to Jesus, the founder and perfecter of our faith, who for the joy that was set before him endured the cross, despising the shame, and is seated at the right hand of the throne of God. A thousand years after the Psalms were written, Jesus Christ, God's only Son, came to earth to endure a punishment that we deserved for our sin against God. That punishment was a painful, shameful death on a cross as if a criminal. **John 3:16** says **16 For God so loved the world, that he gave his only Son, that whoever believes in him should not perish but have eternal life.** The Psalmist remembered times when God delivered His people out of the hand of evil and guided them to the land of promise; he was saved through his faith in God. For those of us who have turned to Christ in faith and repented of our sin, we understand that the Old Testament animal sacrifices, such as those offered for the Psalmist, were insufficient to cover the penalty and debt caused by sin. We can praise God all the more as we look to Christ for deliverance from our sin, knowing the high cost He paid on our behalf.

**Psalm 66:7** includes a warning: **let not the rebellious exalt themselves.** We tend to take our eyes off of God and focus on ourselves, don't we? John Piper wrote, "It horribly skews the meaning of the cross when contemporary prophets of self-esteem say that the cross is a witness to my infinite worth, since God was willing to pay such a high price to get me. The biblical perspective is that the cross is a witness to the infinite worth of God's glory and a witness to the immensity of the sin of my pride."<sup>1</sup> Even many modern songs posing as "worship" point back at *us* as if *we* are great because of how God treats *us*. When we read the Psalms, we get the proper perspective, and the focus is on God. As believers in Christ, the response is not "God loves me; therefore, I am good enough." Instead, it is, "I am *not* good enough, so only Christ's selfless sacrifice for sin because of His great love could pay the ransom, the debt, for my great disobedience and rebellion against God."

Let's keep reading in Psalm 66, starting at verse 8, **8 Bless our God, O peoples; let the sound of his praise be heard, 9 who has kept our soul among the living and has not let our feet slip.** When we read these words, we may be tempted to think that this is a promise of prosperity in

---

<sup>1</sup> John Piper, The Supremacy of God in Preaching, Revised and Expanded Edition, Chapter 2, 2021

this life, but let's keep reading from verse 10 as the Psalmist actually gives us illustrations of trials, burden, and testing.

10 For you, O God, have tested us; you have tried us as silver is tried. 11 You brought us into the net; you laid a crushing burden on our backs 12 you let men ride over our heads; we went through fire and through water; yet you have brought us out to a place of abundance. Silver, a precious metal, was heated in intensely hot fire to the point of melting so that impurities could be skimmed off the top. Through this process, the silver became more pure and more precious. Sometimes, God brings us through a trying process; allows a heavy burden to be placed on us; or lets us be, as the psalmist writes, trampled on by others, yet God brings us out of these times and uses them to purify us. And when He does so, he brings us to a place of abundance. How do we characterize this abundance? Let's look at the book of James in the New Testament, starting in chapter 1 verse 2: 2 Count it all joy, my brothers, when you meet trials of various kinds, 3 for you know that the testing of your faith produces steadfastness. 4 And let steadfastness have its full effect, that you may be perfect and complete, lacking in nothing. And going down to verse 12: 12 Blessed is the man who remains steadfast under trial, for when he has stood the test, he will receive the crown of life, which God has promised to those who love him. Here we see an important point, which is: **God uses our testing and our trials to produce in us a steadfast faith through which He grants eternal life to those who love and believe in him.** Remember in verse 9 in our Psalm, it's not we who keep our feet from slipping; it's God. We don't endure these trials because of our own toughness, our own determination, or our own steadfastness. Our faith can only endure because God keeps us, sanctifies us, and perfects us. As we remember that, let's respond in worship.

Let's continue reading in verse 13: 13 I will come into your house with burnt offerings; I will perform my vows to you, 14 that which my lips uttered and my mouth promised when I was in trouble. 15 I will offer to you burnt offerings of fattened animals, with the smoke of the sacrifice of rams; I will make an offering of bulls and goats. Selah

During the Psalmist's trials and time of great need, he made vows to the Lord. Here we see him follow through on those commitments as he presents a great offering of thanksgiving to God for bringing him through those times of trial. Let me ask us today, when we find ourselves in times of trial and adversity, do we turn to God? Do we understand that God is refining our faith? Or do we respond with bitterness? Through the power of God's Holy Spirit in our heart, may we respond as the Psalmist did, with renewed commitment to follow God; and when we are delivered, with a thankful heart. Offering thanks to God is important as we see in **Psalm 50:23** 23 The one who offers thanksgiving as his sacrifice glorifies me; to one who orders his way rightly I will show the salvation of God!

Before Christ came, one way to express this thankfulness was through burnt offerings as we just read; incense and animals burning on an altar in a way that God specifically directed. But what does God desire as a sacrifice today? **Romans 12:1** tells us 1 I appeal to you therefore, brothers, by the mercies of God, to present your bodies as a living sacrifice, holy and acceptable to God, which is your spiritual worship. God desires us, our obedience, and our dedication as we live our lives in a way that honors Him, brings Him glory, and worships Him. This is in contrast to the lip service described in **Isaiah 29:13**, quoted by Jesus in **Matthew 15:8-9** 8 "This people honors me with their lips, but their heart is far from me; 9 in vain do they worship me, teaching as doctrines the commandments of men." If we come before God

in prayer, or in church, or in singing worshipful songs, but we do not humble our hearts before Him, draw near to Him in our hearts, and live a life that seeks to honor and follow Him, our words and our songs are in vain. **To truly worship God, we present Him with the thanksgiving and living sacrifice that He desires, not mere lip service, tradition, or habit.**

Let's read verses 16 and 17. **16 Come and hear, all you who fear God, and I will tell what he has done for my soul. 17 I cried to him with my mouth, and high praise was on my tongue.** In verses 16 and 17, we see an important point that **God's people bring Him glory by sharing their own testimony of what God has done for their soul.** Like the Psalmist, we too should proclaim to others what God has done to us. By sharing with those who fear God, we stir up others to worship. This is why we have a member share a testimony in the service, usually each month. But it shouldn't be limited to that. This should be happening in our Sunday school classes and our small groups; during the week in our prayer meeting or even via a brief message. Let me ask you today, do you make a habit of telling others what God has done for your soul?

Let's read the rest of the Psalm, starting in verse 18. **18 If I had cherished iniquity in my heart, the Lord would not have listened. 19 But truly God has listened; he has attended to the voice of my prayer. 20 Blessed be God, because he has not rejected my prayer or removed his steadfast love from me!** Did you see the warning in verse 18? If we cherish, if we treasure, or hold to sin in our hearts, then the Lord would not listen. The Psalm ends with this important point: **Our praise is heard when we cherish God, not sin.**

Before we close, brothers and sisters, consider: what iniquity do you cherish in your heart? What might you be clinging to that separates you from God and causes Him not to listen? I encourage you; repent today. Be restored to God; remember His mighty works, and bring him joyful praise as you live your life as a living sacrifice that glorifies God. And remember that only the Holy Spirit can enable you do this and endure in your faith.

For those who have not yet followed Christ in faith, know that this warning also applies to you. My hope and prayer for you today is that you may be convicted of your sin against God, understanding the eternal punishment that you deserve; and that the Holy Spirit would lead you in repentance and in faith; that you may trust only in Jesus Christ, God who became man and died to take the punishment for all who believe and call on His name. And when you do that, you will be granted eternal life, and you too will have great reason to bring glorious praise to our Savior and King.

Let's pray.